

エネルギー転換へのイニシアティブ

経済産業大臣主催の「エネルギー情勢懇談会」が2018年4月13日にこんな提言を出しました。

(参考資料①) p.2

この提言は、福島第一原発事故の教訓をどういう形で示していくのかという問いかけへの回答でもある。

とも書いてあるこの提言の中身を見てみます。

第1章エネルギーを巡る情勢変化

(参考資料①) p.5

現在の太陽光・風力といった再生可能エネルギーは、火力発電による補完が必要であり、それ単独では脱炭素化を実現することはできない。天候次第という間欠性の問題から、供給信頼度は低く、その依存度が高まるほど自然変動によって停電を防ぐための品質の安定(周波数の維持)が困難になる。

(参考資料①) p.5

再生可能エネルギー単体による電力システムは、自立化や脱炭素化に向けて、現段階では課題が多く、(中略) 技術革新競争がこれから本格化する。

第2章2050年シナリオの設計

(参考資料①) p.17

原子力や水力、地熱といった脱炭素化の選択肢は実用段階にあるが、再生可能エネルギーのベースロード化の鍵を握る蓄電や水素、化石資源の脱炭素化の鍵を握る水素や合成ガス、このいずれの選択肢も開発段階にある

(参考資料①) p.18

脱炭素化エネルギーシステム間のコスト・リスク検証の具体的な設計を急ぐべき

第3章野心的な目標,各選択肢が直面する課題,対応の重点

(参考資料①) p.19

脱炭素化エネルギーシステムに関するあらゆる選択肢について、人材・技術・産業基盤を強化し、官民が結束して課題解決に挑戦していくことが必須

(参考資料①) p.19

原子力の課題解決方針

- 可能な限り原子力発電への依存度を低減するとの方針は堅持する。
- **現状、実用段階にある脱炭素化の選択肢である原子力**に関しては、(中略)
安全性・経済性・機動性のさらなる向上への取組が始まっている。
- 我が国においては、(中略)
人材・技術・産業基盤の強化に直ちに着手し、安全性・経済性・機動性に優れた炉の追求、バックエンド問題の解決に向けた技術開発を進めなければならない。

第4章シナリオ実現に向けた総力戦対応

(参考資料①) p.22

必要なことは、「総力戦」での対応である。(中略)
エネルギーが転換期にきているという認識、危機感をまずは共有する。
その上で(中略) 解決に向けた果敢な挑戦を行う。
(中略)
エネルギー転換に向け、政策・外交・産業・金融の好循環を実現することが何より重要

最後に一言

『エネルギー転換に向け、「総力戦」で対応』する必要がある、と言います。
エネルギー転換の大きな方向性は「脱炭素化」。今のところ再生可能エネルギーは開発途上なので「実用段階にある」原子力を「脱炭素化」の選択肢からは外せない。そんな風に読めます。
でも、ゴミも片付けられない技術が「実用段階にある」って言うてる時点でおかしいと思います。

一方、2018年2月19日に外務省の有識者会合が出した「エネルギーに関する提言」では『**原子力発電は、石炭火力と同様に需要追従性が低く、系統に対する柔軟性に乏しいため、世界が進める再生可能エネルギー中心の電力システムとの整合性に問題を抱える**』と言っています。

経産省と外務省

2つの有識者会議の参加者で議論してほしいなあ。

参考資料

①資源エネルギー庁HP「エネルギー情勢懇談会」提言
http://www.enecho.meti.go.jp/committee/studygroup/#ene_situation

②外務省HP「第8回(大臣主催第2回)気候変動に関する有識者会合」

『エネルギーに関する提言』

http://www.mofa.go.jp/mofaj/ic/ch/page22_002958.html